

事実の構造把握を矛盾から入れ子へ

Reconsider Structure of Facts: From Contradiction to Nested Structure

高原利生 Takahara Toshio

takahara-t@m.ieice.org

1. 前書き: 事実に対する態度 [Taka-67]

無限大の情報を持つ**事実**を、ある**粒度**(抽象化具体化の程度)で、**網羅**された中から知覚と思考によって切り取り扱う情報が**オブジェクト**である。**粒度**は、無限の情報量を持つ「あるもの」から、観念で扱えるようにオブジェクトを抽象化する程度で、属性とその空間時間形式である。網羅、粒度、オブジェクトは同時にしか決まらない。

事実を、1 客観的に“ある”もの、2 これから知覚等で入手した観念内の一次的情報、3 観念内でそれを対象化した二次的情報と近似する。この順に、前のものから次第に独立していく三階層があり、二次情報で述べる命題は常に**仮説**である[Taka-67] この良さ/正しさは一次的情報と論理により検証される。

命題に、「神は実在する」のような存在命題、述語が形容詞や動詞のような属性命題、「項 1-関係-項 2」で表される**関係命題**がある。この**関係**は項 1 と項 2 を両立させる**矛盾**である。矛盾を「両立しない」ことでなく弁証法論理における両立の意味で使う。両立に、それを始める運動と維持する運動がある。本稿は**関係命題**だけ扱う。

事実に**価値**の扱いの進展があった。価値とは主体にとって大事な物事またはその基準で、自由と(博)愛で表される[Taka-67]。大事なことが二つ。1 平等や民主主義は価値ではない。民主主義(≒平等)を**手段**、**前提**として価値を追求できる。2 技術及び政治などの制度の双方で、共通に緊急/重要な価値を優先して扱わないといけないがそうになっていない。自然は擬人的に平等である。

構造は、**下位の要素の粒度を前提にした、下位の要素と要素間の関係(運動)の全体**である。(多くの定義は単に**関係の集合体**とする)。

構造は一次的**超歴史的**で、機能なしに構造は単独でありうる。属性、関係がその外部に対して発する意味が**機能**である。機能や価値は、主体の価値観に依存し、特に文化・文明誕生後は**歴史的**で、機能、価値が先にあり、それを実現する構造を作るのが後、という**歴史順序**ができる。

認識と変更がある。今の事象と両立する仮説ができること「今の事象と立てた仮説の全体」という新しい**認識**が生まれる。**変更**は、1 目標の**機能要件**を決める、2 **事実構造**を確認する、3 **事実の変更方法**を作り実施する、という三段階からなる。**要件に仮説を含む**。

2. 機能の要件

21 宇宙から素粒子までの自然、人に共通の要件 (仮説含む)

- ・歴史と論理の統一[Taka-67]。
- ・**空間的要件**: 何事も 1 全体は何か、2 全体の構造(要素とその間の関係)は何か、3 要素は何か、4 この要素を全体として 1 に戻る。[Taka-67。この 26 版より前の版では「両方向に続いていく」としていたが間違いであった]。

22 人の制度についての生き方に特有な要件

- ・**時間的要件**: 状態と過程の統一 ([Taka-67])
- ・主観と客観の一致・事実と価値の統一・全体と個人の統一
- ・態度や判断決定を瞬時にすること。これは[RDI 規則第 5, 第 7]の要件である。この前提は全ての人の平等な事実把握である。

3. 事実構造

31 宇宙から素粒子まで

ヒッグス粒子の発見があった。物理学上、**事実**は 1) 5%の、基本概念(質量、エネルギー)が相互転換し基本概念の同一性が成り立つ**矛盾以前**と(認識と技術による変更対象は)通常の**矛盾の集合体の混在**。2) 残りの 95%の、宇宙、素粒子の**ダークマターとダークエネルギーの矛盾の集合体**[村山斉]。[村山斉]では宇宙と人に共通の論理があることも不十分なりに示される。

32 人の生き方に特有: 物々交換開始とその後

1 ビッグバン以来、長い年月を経て宇宙、太陽系、地球と人類が誕生した。今の地球と人類は**大きな自然の論理と小さな偶然の産物**である。

2 意図的変更は、最初は、偶然、何かを操作して、有意な結果を得られたことに始まる。これが繰り返され、意図が加わるようになる。

3 猿という種が生まれた時期以降、農業革命がおこるまでの人類の数が多くない時期に、人類全員の DNA に、努力すれば可能性を増やし続け得るといふ遺伝情報が含まれるようになった(**仮説**であるが、検証済みであると思う)。

4 **資本論**第 1 章は物々交換という運動の始まりを扱えなかった。[THPJ2012] [IEICE2012] [Taka-67 付 1] 物々交換は「所有」という**一方向の一体化**と同時に生まれ、更に物々交換により増えた人口、増した把握外界の管理のため、集団や神への帰属(もう一つの**一方向の一体化**)を産む。その後、文化文明誕生、工業革命、情報革命とその後の未来像に至る道筋はほぼ**論理と歴史**とおりに進んできた。一体化の**双方向化**の論理もできた。大きくは検証済みである。

4. 実現方法の検討

従来、**事実構造**を矛盾と捉えてきた。『事実と目標の差が**問題**であり、**問題の解決**は、1 問題定式化(**矛盾** = 関係命題への抽象化)、2 推論、3 結果の具体化、の三つからなり[Naka-2005]、一般の思考について成り立つ』と考えてきた。中川徹先生による世界で最初の把握である。そして変更は、機能と構造の矛盾を解いて構造を実現すればいいと考えてきた。[FIT2016] [FIT2022]

この考え方は**矛盾モデル**による。

実現方法と問題を、歴史的順番にそって述べると次のようになる。

41 量的変更

同じ質の内部の量の変更である。

42 質的変更: 矛盾モデルによる変更

矛盾モデルにより属性の変更ができる(1. 変更で述べた 3 段階) 矛盾モデルの問題は、1) 解を求めるときの価値観に規定された**現実把握**によって、狭い範囲の求解になることである。この対策は**問題定式化の論理的網羅性**である[Taka-70]。しかしこれは論者に意識されないことが多い。この問題を無視すると組み合わせ爆発が起こる。それ以前に、矛盾自体や弁証法論理が多くの人に意識されていない。2) 矛盾が 2 項モデルで単純であることが、狭い範囲の求解に限定される原因であることも明らかである。この一つの解決法は、**事実を矛盾の集合体**にすることであるが、その場合、直並列、木構造などの**トポロジー**が課題である(21)。空間的要件(21)

のトポロジーは、ハイパーキューブ、トラスやフラクタル構造が思い浮かぶがおそらくこれを超える構造である。3) もう一つの解決法は複数項の矛盾の同時解決である。

制度に対する生きる態度 = 生き方については「対象化⇒一方向一体化⇒双方向一体化⇒対象化と意図的の双方向一体化の統一」という順に「**対象化と意図的の双方向一体化の統一**」という**一体型矛盾**ができています [Taka-67 26 版の 2 章 2.3 3. 34. 342. 2.4 7) 付 1] (生き方と異なる領域の)自然の双方向一体化は**非意図的**(21)である。双方向とはお互いという意味。

物々交換や言葉のような観念とものの複合体(サービス含む)に関わる矛盾に必要なのは「**両立を始める運動と両立を維持・運用する運動**」(1)の内、**両立を始める運動**である。始めるためには、1 始めるための条件が地球に偶然あり、2 始める矛盾の生成(物々交換の場合、共同体代表者の二人に同時に物の所有意識があること、交換の時間場所の二人の観念の共有の共有、共有は両立の一種) 3 その矛盾の解の実現が同時になければならぬ。偶然、交換の両主体に共同観念共有が生じた瞬間に、被交換物に、使用価値というものとしての属性に加え、交換可能性という制度上の属性が加わり物々交換ができる。[THPJ2012] [Taka-67 4.3] これは偶然で来た。

43 入れ子

4) 矛盾モデルのもう一つの問題は、事実の受け身の変更であることである。矛盾の解決の副作用を解決して問題が解決したように思ってしまう。この解決を目指し、矛盾モデルに入れ子モデルを加える:「**問題定式化(矛盾 = 関係命題への抽象化)、推論、結果の具体化**」に、入れ子を仮説、考慮要因として加える。[Naka-2005]の解釈の拡張である。

入れ子とは、全体の中の統一すべき片方の空間又は時間の中に、もう片方の何かの一部を含ませることである。一方向と双方向の入れ子がある。一部は全部ではない。どういふ一部を入れるか、入れた後どう処理を進めるかは難しい。もともとの矛盾が 2 項モデルで単純であるのに対し、入れ子は桁違いに複雑である。矛盾の問題が「解を求めるときに価値観に規定された現実把握によって狭い範囲の求解に限定される」「**反面**」でもある。

生き方の様々な過程で、直面する対象化と双方向一体化の統一という一体型矛盾が放置されるといじめや環境破壊、戦争が起こる。物々交換開始の時のような偶然でなく意図的な開始が必要になる。入れ子を作る論理はまだないので例えば自分と対象や他国の価値の両立案、入れ子の具体案を「**事実**」として加え抽象化を進める。

5. 結論

宇宙から素粒子までと生き方に共通に、より正しい真実のために従来どおり、矛盾の構造の対象化努力を続けなければならない(機能の要件)。

生き方について、一体型矛盾の実現結果例は対象化と双方向一体化の統一であり入れ子を構成する。([Taka-67 第 2 部])。例えば、労働による労働者能力向上と労働対象の向上の「**始める論理**」による具体案があるとすると、この実現案を**事実**と扱いこれを抽象化し更に論理を進める。

しかし生き方について、例えば野草や猫との一体化のための彼らの種の存続手段さえよく分からない。(分かっているのはヒューマニズム・人間中心主義を前提にした「**対象化と一体化の統一**」という一体型矛盾の解である。これはゼロから導いた論理的解である。

そもそも人に作用する外界はどうなっているのかもよく分からない。

自然については物理学の論理の難しさが特に超紐理論で表されるような自然の解明はできていない。

本稿は問題解決のサーヴェイを述べた。元々の題の中に「**矛盾から入れ子へ**」とあるが、「**矛盾と入れ子の併用**」が正しかった。

1 今まで矛盾モデルの問題定式化の論理的網羅性を提案してきた。今後、**事実を矛盾の集合体と捉えること、複数項の矛盾への拡張**も行う必要がある。

2 今回、**入れ子**を方法として用いること、**入れ子の具体案を事実と扱う方法**を提案した。人の生き方だけが意図的な双方向性を必要とする。観念とものの複合体に関わる制度の開始が、人の緊急の課題である「**対象化と一体化の統一**」という一体型矛盾を始めた。これには偶然が介在した。これを意図的に行うこと、入れ子生成の論理検討が課題である。自己表出と指示表出の統一(吉本隆明)も人と AI の対話も課題である。どれも今の技術と制度の初歩的問題を解決する。しかしこの実現には世の中の論理、哲学の根本的変革が必要である。

事実(それに対応する人の運動)に 1 矛盾と非意図的の一方向入れ子(認識と技術による変更)と 2 意図的の双方向入れ子(ものと共同観念の双方に関わる生き方)の二つがあることが発見だった。

謝辞

本稿は、大阪学院大学名誉教授中川徹博士の 2005 年以來長年に渡るご理解と励ましの賜物である。厚く感謝申し上げます。

参考文献

[RDI] デカルト,「精神指導の規則」野田訳, 岩波文庫, 規則第 5,7.1950.「網羅」は本訳では「枚挙」である.新訳も出ている.原著 1701.

[EPM] K. マルクス,「経済学・哲学手稿」藤野訳, 国民文庫, p.153, 1963, 原出版 1933, 手稿 1844.

[村山齊]. 最終講義 (NHK アカデミア 2024)。

[Naka-2005] 中川徹, “創造的問題解決の新しいパラダイムー類比思考に頼らない USIT の 6 箱方式ー” 日本創造学会第 27 回研究大会 2005.

[TS2011] 高原, “一体型矛盾解消のための準備的考察ー生き方の論理を求めてー”, 第七回 TRIZ シンポジウム, 2011.

[THPJ2012] 高原, “技術と制度における運動と矛盾についてのノート”, TRIZ ホームページ, 2013.

[IEICE2012] 高原, “物々交換誕生の論理”, 2012 信学総大, A-13-1, 2012.

[Taka-70] 高原, “論理的網羅”, <http://www.ogjc.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2019Papers/Takahara-Papers2019/Taka-54-RET-Memo-200106.html>

[FIT2016]<http://www.ogjc.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2016Papers/Takahara2016/Takahara-FIT2016-161005.html>

[FIT2021] 高原, “弁証法論理学が作る哲学、その歴史的論理構造”, FIT2021, O-026, 2021.

[FIT2022] 高原, “弁証法論理学について”, FIT2022, O-024, 2022.

[FIT2023] 高原, “論理の基礎再考: 仮説設定と認識・変更の方法”, FIT2023 O-023, 2023.

[Taka-67] 高原,「弁証法論理哲学ノート」26 版.制作 MyISBN 発行所 デザインエッグ(株). 2024 年予定.「弁証法論理哲学と生き方」15 版.制作 MyISBN 発行所 デザインエッグ(株). 2024 年予定.